

部局名 課室名 教育委員会 担当部局 生涯学習課

| 1. 基本施策名等(基 | 基本計画における | 5 「基本施策名」 | 等を記入) | | | | | | | |
|-------------------------|----------|-----------|--------|------|---|---|---|---|--|--|
| 基本施策ID | | | 基 | 本 | 施 | 策 | 名 | | | |
| 5 – 2 – 1 | 郷土の歴史 | ・文化財や伝統 | 文化を守り、 | 継承する | | | | | | |
| 重点施策ID | | | 重 | 点 | ħ | 包 | 策 | 名 | | |
| | - | | | | | | | | | |

| 2. | 事業名等 | | | | | | | |
|------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------|--------------------------|------------|--------------|
| 事 | 業 名 文 | 化財愛護意識啓発 | 事業 | 4 | 事業区分 | ② ①新規 (| ②継続 ③その化 | <u>h</u> () |
| 細 | 事業名 文 | 化財愛護団体・人 | 、材育成事業 | | (| ① ①毎年 (| ②隔年 ③その化 | <u>h</u> () |
| 事 | 業 主 体 豊 | 後大野市 | | 3 | 医施形態 | ① 直営 (| ②指定管理 ③孝 | · 经託 |
| 事 | 業種別 ① | ①自治事務 | ②法定受託 | 事務 | | ① ④その他 | (|) |
| 実 | 施期間 平 | 成 17 年度 ~ | 平成 22 年度 | 根拠法規 | 文化財保護法・ | 豊後大野市文化財保護 | 要条例・豊後大野市歴 | 史民俗資料館条例 |
| 各種 | 重の計画への反 | 映(=根拠計画 |) 豊後大野 | 市総合教育計画 | | 事 | 業 I D | 27009 |
| 3. | 事業の内容等 | | | | | | | |
| 事業 | まの背景 | | | | | 名称 | | |
| | | 計画、大分県教育改革 | | | 補助事業 | 名称 | | |
| | | にする県民意識の醸成 学習ニーズが拡大。 | | | 補助争未 | 上 11 | 県 | その他 |
| で、 | その他に公民館主作 | 催事業の中で文化財象 | 受護について学ぶ機: | 会を設けている | | 補助率 1/ | 1/ | 1/ |
| 支援 | つもめる。このよ や団体維持のため(| うな団体・教室の学習 の支援がそれぞれ求め | 育店動には専門的知识 りられている。現在、 | 載を持つ職員の <u>260</u> 件の物件 | | 1 | | |
| | | 文化財案内板の老朽化 | | | 起債の | 2 | | |
| | な設直か必要。歴! %応えることができ | 史民俗資料館の空間7 :ない状況である。 | ト足は省めず、見字 | 首の布室に | 種類 | (3) | | |
| 事業 | 美の目的及び対 | a | | 事業概要 | | <u> </u> | | |
| |]的】 | | | | 体・人材育成事 | 業(単費事業) | | |
| | 市内外への文化 | ヒ財周知のほかに | 、郷土の歴史 | ○資料館常設・ | 企画展示運営事 | 業(単費事業) | | |
| | | 田り、大切にする | | | | 講(外部講師を招 | | |
| | | 見しみを芽生えさ | | | 心しての各字校 の展示替え作業 | や各種社会教育学 や企画展の開催 | =級への出用講座 | や体験学習会の |
| - | ノを持り、よりで ろ人材の育成を行 | づくりに積極的に | 関わろうとす - | 前年度の評価 | | に基づき見直しが | - 内容 | |
| | 才象】 | 17. | | E | | | | |
| Ħ | 7民 | | | 維持 | | | | |
| 4. | 予算・決算の | 伏況 | | | | | | (単位:千円) |
| | 財源内訳 | H 17 | H 18 | H 19 | H 20 | H 21 | H 22 | H 23~ |
| | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 県支出金 | | | | | | | |
| 予 | 地方債 | | | | | | | |
| 算 | その他 | | | | | | | |
| ~ | 一般財源 | 72 | 38 | 75 | 75 | 90 | 90 | 90 |
| | 計 | 72 | 38 | 75 | 75 | 90 | 90 | 90 |
| | 国庫支出金 | | | | / | 1 / | <u> </u> | 1 / |
| ا ير ا | 県支出金 | | | |] / | | | |
| 決 | 地方債 | | | |] / | | | |
| 算 | その他 | | | |] / | | | |
| ı | 一般財源 | 72 | 38 | 75 | 1 / | | I / | |
| | 計 | | 00 | |] / | | | |

| 5. 実績及び達成 | 目標等 | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|--|----------|--------|--------------------|------|----|---|---|--|--|
| 過去3年間の事業 | | | | | | | | | | | |
| 平成17年度 | | 平成 | 18年度 | 平 | 成19年度 | | 課題 | | | | |
| 【実績】 歴史民俗資料館講 各学校や社会教育: 講座 | | 【実績】 歴史民俗資料館 各学校や社会教 講座 企画展示(高添 | 有学級への出前 | | 館講座開催7回 教育学級への出 | 指導者等 | | | | | |
| 達成目標と前年度 | までの進捗状 | 況・・・・・事業成 | 果の目標となる排 | 標と目標数値 | Ė | 1 | | | | | |
| 活動指標 | 資料館講 | 資料館講座等の開催回数 | | | | | | | | | |
| 効率指標 | | 前年度決算額>当該年度決算額 ⇒ 平成21年度は、コスト評価(経済性、効率性、効果性)を実施する。 | | | | | | | | | |
| 成果指標 | 文化財愛 | 文化財愛護団体数 単 位 団体 | | | | | | | | | |
| 年 度 | H 17 | H 18 | H 19 | н | 20 H | 21 H | 22 | 備 | 考 | | |
| 種別 | 団体数 | 団体数 | 団体数 | 団体数 | 団体数 | 団体数 | | | | | |
| 目標値 | | | 10 | 10 | 10 | 10 | | | | | |
| 実績値 | 5 | 6 | 7 | | | | | | | | |
| 達成率 | | | 70.0% | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | |

総合計画/実施計画書 兼事務事業評価シート 評価対象年度 H19 年度 評価実施

部局名 教育委員会 担当部局 生涯学習課

評価実施年度 H20 年度

6. 前年度の事業評価 評価に関する視点 事業の 1 2 3 4 時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには 評価 4 他の自治体の動向等を踏まえて評価する。 必要性 高い 市民が文化財を学び郷土愛を育むことで、過疎化、少子化の抑制に役立つから。また、他市町村においても、地域づくりの 核を文化財に求めるところも多く、本市でも重要な地域資源としてこれらに興味を示し活用する意図のある市民は重要な人材 由 1 2 3 4 5 行政の この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを 評価 5 関 不要 ← → 必要 供給できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。 本事業のもたらす効果は遅効性で公共性が高いため、利益を優先とした民間でサービスを供給することは難しい。ただ、科 学的な専門分野において民間と協力し、より深い知的欲求に応じるサービスは有効で検討の余地があるため。 玾 由 手段の 1 2 3 4 5 行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的 評価 3 妥当性 低い ← → 高い な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。 これまでの市民を対象とした講座は全て参加料無料で行っているが、参加者からも受益者負担については、適正な対価を支 払いたいという申し出もあり、今後検討する必要があるため。 理 曲 1 2 3 4 5 事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経 業の 3 評価 費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。 効 果 低い ← → 高い 参加者数は確実に増えているが、それらの方々が自主的、主体的に新たなグループを作って活動していくまでには至っていない。また、参加者の固定化が見られ、その年齢層も壮年以上の世代が中心であるため、より幅広く参加していただくよう工 夫が必要だから。 曲 1 2 3 4 5 事 業の 全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できな 評価 4 減額 ← → 増額 いのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。 多くの経費を要しない事業ではあるが、その効果をよりよくするためには講師を呼ぶ回数を増やすなど事業の拡大が必要で あるため。 玾 由 員制 1 2 3 4 5 人体 事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直 評価 し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。 減員 ← → 増員 他業務との兼ねあいの中で、本業務に係る人員が手薄になっている現状があり、市民に対し満足なサービスを提供できない ため。 由 今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事 R C D F F 業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活へ の影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向 Ε 評価 規模 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大 へ進めていくのかを総合的に判断する。 今後も市民のニーズに応えられるよう体制を整え、事業を推進していかなければならないから。 理 由 その他、特記事項 事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。 これまでの事業展開を振り返ると、市民の要望は多角的で専門性の高いものとなる可能性がある。そして、そのニーズに応じ て、事業は徐々に拡大する傾向にある。そのため、経費的にはさほど変わらないが、講師ができるような人員の配置が必要になっ また、文化財愛護団体の構成員は高齢化が進み、若年層の取り込みが喫緊の課題となっている。 長 課長 班長 担当者 部 内線 3843 E-mail @bungo-ohno.jp